

トピックス

今回の企画展では、新資料、めったに見られない、初公開などの貴重な資料を展示することが出来ました。それらをご紹介します。

◆今回初公開！◆

北澤楽天画『官員酒宴』

平野一郎氏所蔵

北澤楽天は、明治大正昭和の風刺漫画家。日本では初めてのカラー漫画雑誌『東京パック』を創刊するなど、先駆者として活躍しました。

楽天は、一九四四（昭和十九）年から四年間、田尻町に住んだことがあります。最初は疎開目的で遠い親戚を頼ってきたのですが、居心地がよかったためか戦争が終わっても二年以上滞在しました。

楽天の資料はほとんど、生誕地である埼玉県の大宮市立漫画会館に所蔵されていますが、田尻在住の方が古物商から買い求めたという新資料が発見されました。今回初公開です。「官員酒宴」は全長四メートル近くある巻き物で、官僚たちが酒宴で次第に醜態をさらしていく様子を描いた、風刺漫画ならではの題材です。



『官員酒宴』（一部）

◆これは面白い!?◆ 宮武外骨『赤』

日本漫画資料館所蔵

「民本主義」がちまたの流行語となっていた一九一八（大正七）年、アウトサイダーのジャーナリスト宮武外骨が出した雑誌『赤』。この中で「民本主義」を使った漫画があります。官僚たちが様々な政策で「民本主義」の潮流を阻止しようとはしますが、民衆は困った顔で下を向いている、というもので、善良な一般民衆の戸惑いを通して「民本主義」の浸透の様子を表現しています。



『赤』

北澤楽天画 「デモクラおさん」

大宮市立漫画会館所蔵

「デモクラシー」の流行は家庭生活にも及びました。この漫画では、おさんという女中が「デモクラシー」を理由に怠けたり勝手な振る舞いをする様子を描いたもので、流行の意外な波及効果が風刺されています。

◆知らなかつた!◆ 新渡戸稲造関係資料

盛岡市先人記念館所蔵

新渡戸稲造といえば、五千人札の顔。この人が吉野と関係することを知っていますか？

吉野は大学一年のとき、第一高等学校校長の新渡戸の講演を聴き感動し、「民本主義」の精神を学びました。

今回は、新渡戸の愛用したステッキや色紙、英文書簡などを展示しています。

新渡戸ってどういう人なのか、これを機会に知るのもよいでしょう。

◆東北人の原点!◆

原敬日記

原敬記念館所蔵

「白河以北一山百文」といえば、近代になって東北が受けた屈辱を象徴する言葉ですが、盛岡出身の原は、この言葉をペンネームとし、藩閥へ対抗意識を燃やしつつ政治家として功利的に活動し、一九一八（大正七）年首相になり、平民宰相として期待されました。

今回は、死後の公開を意図していたともいわれる日記の原本（複製）を展示しています。第一級の政治史料であるとともに、重要な文化財でもあるこの日記を、是非ご覧下さい。

◆めったに見られない!◆ 阿部次郎日記及び 吉野作造書簡

吉野作造書簡

大平千枝子氏所蔵

山形県出身で、大正デモクラシーの哲学的基礎である「人格主義」を主唱した阿部次郎の日記と、吉野作造が阿部にあてた書簡・ハガキ（全八通・うち三通展示）は、めったに見られない貴重な資料です。

特に書簡については、本来阿部の意思で「火中」に投ずるはずだったものを、ご遺族のご厚意によって公開することが出来ました。

吉野が阿部に満州への講演旅行を勧めたり、黎明会への入会の勧誘など、両者の交流を偲ぶことが出来ます。今回は最後の公開となるかもしれませんので、どうぞ早めに記念館へ!



『原敬日記』